

「生きるをつくる」 探究型金融経済教育

2026年7月28日
教育と探求社

2004年、日本経済新聞社の教育開発室からスピンアウト。

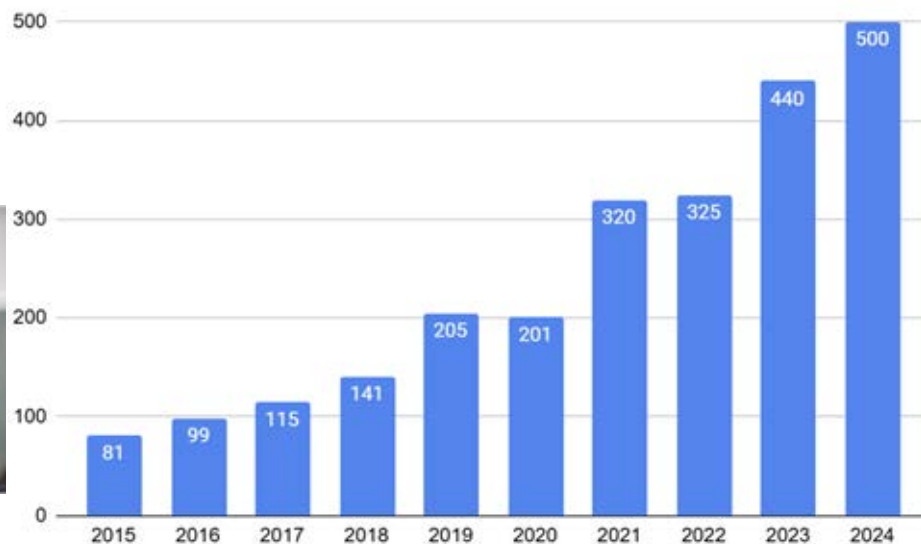
「現実社会を教室に」をテーマに

中学・高校向けに、実在の企業、実在する人物（私の履歴書）、
お金などを題材とした、学校の授業内で実施する学習プログラムを提供。

20年以上にわたり、生徒一人ひとりが自ら感じ、考える学びを
生み出してきた、探究学習のパイオニアです。

クエストエデュケーションとは？

- 現実社会を題材に、生徒が主体的に学ぶ「クエストエデュケーション」
- 学校の正規の授業時間のなかで、教師が実施する探究学習プログラム
- 41都道府県に広がり、全国約500校、10万人。累計で70万人の生徒が学ぶ



- 一つの正解を覚えるのではなく、知識を生み出すプロセスに注目
- 現実の場面や社会的な関係の中で機能する知の重要性
- 「知識を受け取る学び」から、「他者や状況の中で意味をつくる学び」へ

◎客観主義的学習観

- 知識は、客観的に把握できる実体
- 状況から知識を分離し、それを分析することで構造を解明することができる、と考える
- 知っているものから知らないものへ与えられる



◎社会構成主義的学習観

- 知識は、その社会を構成している人々の相互作用により構築される
- 学習者が積極的に環境に働きかけ、既存の知識を駆使して、新しい知識を主体的に構築していく、と考える
- 「言葉が世界をつくる」

「お金の学び」において大切なこと

- 1 お金とは、価値であり、エネルギーであり、意味であり、意思でもある
- 2 価値を測るときには、絶対的な正確さを要求されるものである
- 3 同時に、人によって、状況によって、感じ方も、使い方も異なる相対的な面もある



単に金融についての知識を身につけるだけではなく、お金が自分にとって何なのか？
どんな意味を持つのか？どんなふうに関わりたいのか？

→お金についての感性や考え方、意思を育む学びが必要



探究型金融経済教育

なぜ今「探究型金融経済教育」が必要なのか

これから子どもたちを取り巻く現実

- ・ 速くて激しい社会の変化、これまで以上に**不透明で厳しい時代**。
- ・ つまり、自分の頭で考え、自分で意思決定し、**リスクを取りながら道を切り拓く「骨太の知性」**が必要。
- ・ 「お金」についての学びは「性教育」等と同様、これまで**学校現場では距離**を置かれていた。扱われても知識偏重が主だった。



私たちの実践

「生きるをつくる金融経済教育」

三菱UFJモルガン・スタンレー証券と共同開発

- ・ 金融の知識や仕組みという「**外形**」ではなく、子どもたちの人生や価値観を真ん中に置く。
- ・ 答えは一つではない。自分なりのお金についての考え方や価値観が育まれるようなプログラム設計。

「情動」と「意思」に着目した設計思想



情動

心が動くことが、学びの起点



意思

自らの主体的意思を涵養



「学び」のエンジニアリングとして搭載

情動が動き、価値観が生まれ、意思が育まれるよう、プログラムを設計



**正解のない問いに向き合い、感じ、考え、自らの意思で前に進む力
= AIに代替されない人間の領域**

「知識型」ではないアプローチ

金融経済教育を、「知識伝達」を越えて、自ら考えて意思決定する「探究型キャリア教育」へと昇華

従来の金融教育

知識伝達

- ・ 金融の仕組みや制度を教える
- ・ 正解を学ぶ、外形的な知識中心
- ・ 興味の有無で定着に差が出やすい



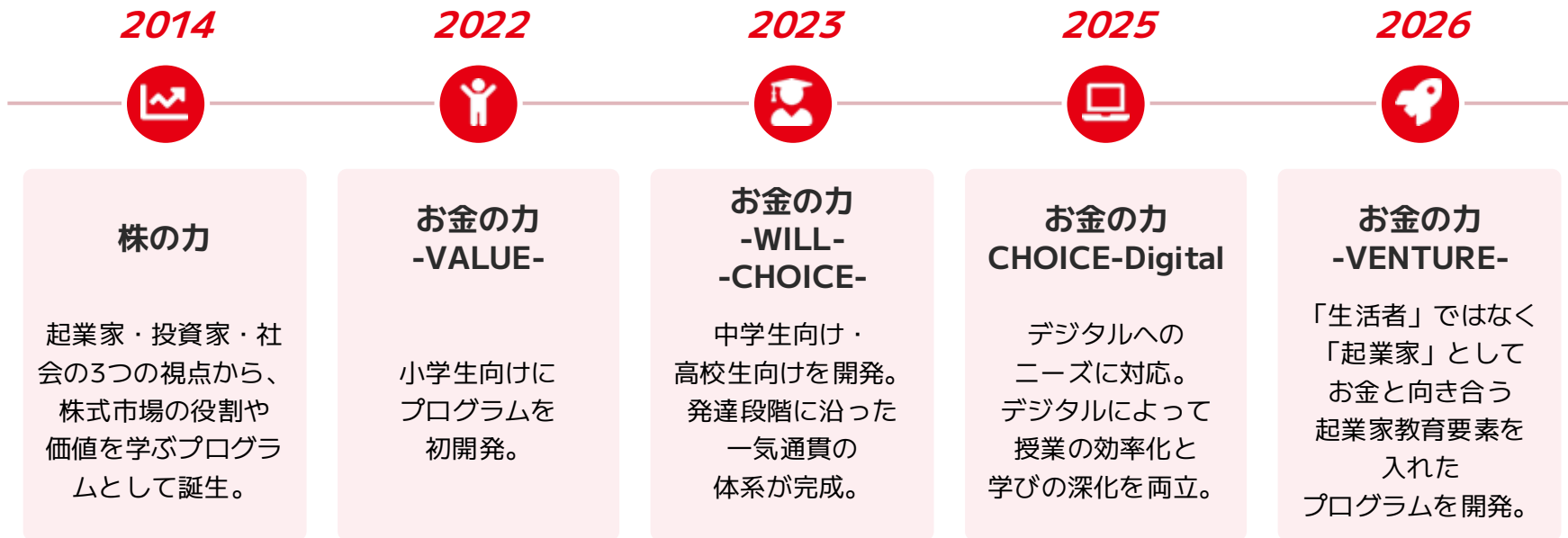
本プログラム

探究型キャリア教育

- ・ 「お金」を入り口に、社会のあり方や自分自身の生き方そのものを探究する体系的カリキュラム
- ・ プログラムを通して「お金に対する心理的態度・信念」を育む

10年以上にわたる発展のあゆみーPDCAによる改善

学校現場のニーズと社会の変化を捉え、10年以上にわたりプログラムは進化を続けてきた



例：お金の力-VALUE-（想定対象：小学校高学年以上）

プログラム進行のステップ

STEP1

高いのはどっち？



STEP2

高いものってなぜ高い？

全体で最も安いのはどれだろう？



STEP3

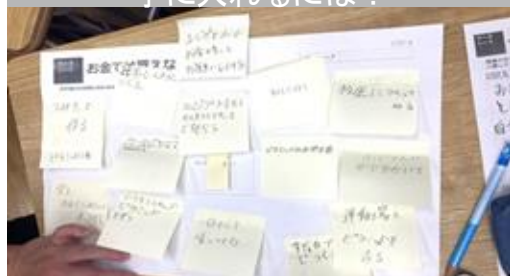
どんなとき値段が変わる？



宿題

STEP4

買えない物を
手に入れるには？



STEP5

お金で買えない何かを
手に入れるには？



STEP6

お金って？



天秤 前半3コマ：身近なものを通してお金の価値を考える



【生徒コメント】
人は性格や価値がバラバラで、嫌な奴もいるけれど、それぞれで自分らしく考えてそうになっていることがわかった。

♥ 後半3コマ：お金の限界と可能性を考える



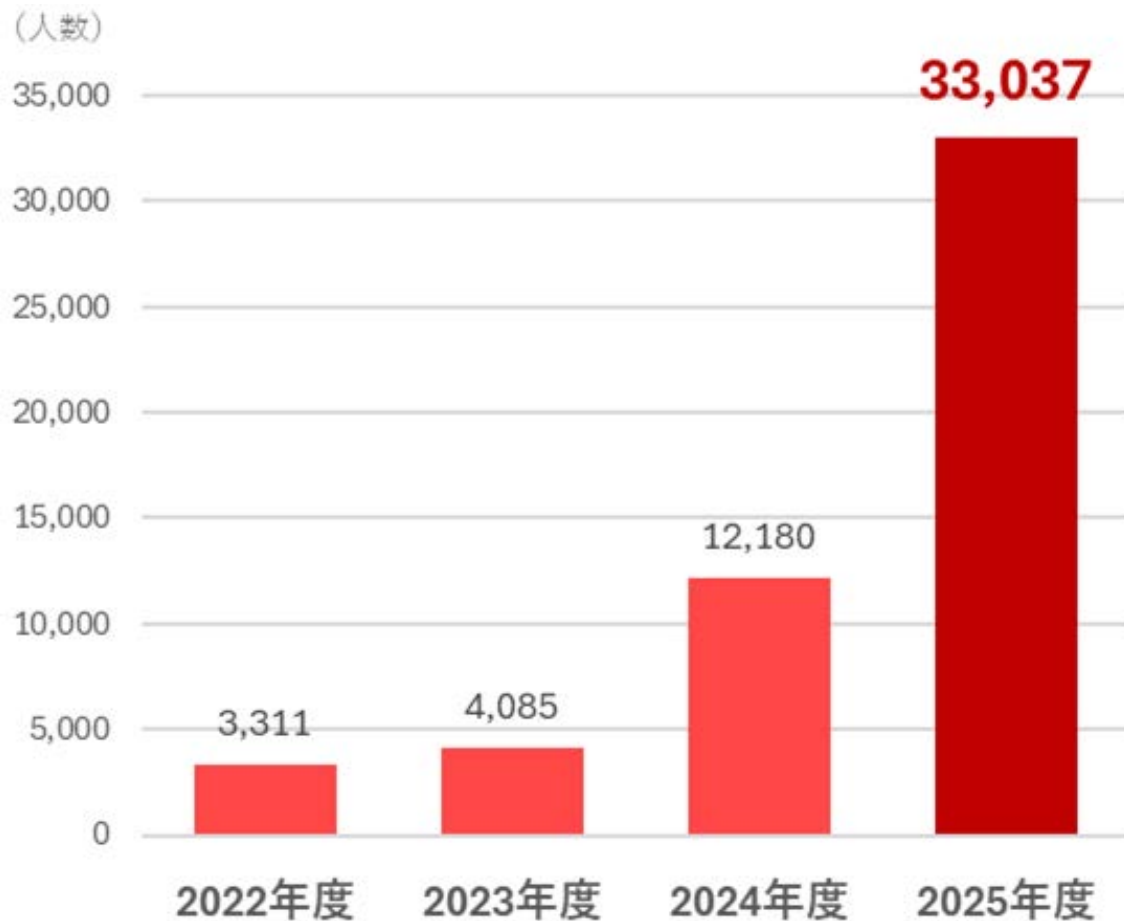
【生徒コメント】
最初の頃は「お金はよく考えて節約しながら使う」と書いたけれど「お金を大切に使うとは、生きていく上で大切なお金をどれだけ大事に使えるか」に考えが変わった。

例：お金の力-VENTURE-（想定対象：中学生以上）



https://www.youtube.com/watch?v=xpuZMVg_eNE

「探究型金融経済教育」プログラムの提供実績



2025年度 実績

33,037 人

425 校

46 都道府県

AIが凄まじい速さで進化を遂げる現代において
人間は何のために存在するのでしょうか？
誰もが向き合う、根源的かつ哲学的命題です。
もちろん、私たちにも正解はわかりません。

ただ、心で深く感じること、
「このように生きたい」というしっかりとした意思を持つことは
私たち人間が手放してはいけない領域であると思うのです。

「お金」いう複雑でダイナミックなものと向き合うことは、
とても難しいことです。これが正解！というものはありません。

だからこそ、お金についての学びを通して、
自分の人生そのものについて考えてほしいと願っています。

参考) 「探究型金融経済教育プログラム」一覧

プログラム名	概要	授業回数	想定対象			
			小学生	中学生	高校生	大学生
株の力	起業家・投資家・社会の3つの視点から株式が経済の原動力となる仕組みを探究し、株式市場の役割や価値を学びます。	5回 (※短縮版：2回) (大学生版特別プログラムも)		●	●	●
お金の力-VALUE-	お金の価値基準(多様な価値)や可能性をカードゲームを活用しながら学びます。	6回 (※短縮版：2回)	●	●	●	
お金の力-WILL-	偉人や様々な職業の人の「お金観」に触れながら「お金と人生」の関係性について学びます。	6回		●	●	
お金の力-CHOICE-	お金に関する人生ゲームを通してお金の使い方が自分の未来や社会にどう影響するかを学びます。	5回 (※短縮版：2回)			●	
お金の力-CHOICE-Digital		5回			●	
お金の力-VENTURE-	お金に対する姿勢や考え方(マネーマインドセット)と創造的に事業を生み出す力(アントレプレナーシップ)の両方を学びます。	3回		●	●	●

Appendix : 会社概要

社名 株式会社 教育と探求社
所在地 東京都千代田区四番町 4－9 東越伯鷹ビル 6F
代表者 宮地 勘司
設立 2004年11月26日

受賞歴

クエストエデュケーション
経済産業省「起業家教育促進事業」採択（2005）
「キャリア教育アワード」優秀賞 受賞（2012）
グッドデザイン賞受賞（2017）
経済産業省「『未来の教室』実証事業」採択（2018/2019） 他
Quest Career in HaNoi
文部科学省主管「EDU-Port応援プロジェクト」採択（2017）
日越外交関係樹立45周年関連事業（2018）
株の力
文部科学省主催「青少年の体験活動推進企業表彰」
「審査委員会奨励賞」受賞（2016）
経済産業省「キャリア教育アワード」大企業の部 奨励賞 受賞（2018）
お金の力
文部科学省主催「いーたいけんアワード（青少年の体験活動推進企業表彰）」
優秀賞受賞（2025）



沿革

2004	現代表・宮地 勘司が日本経済新聞社より独立し創立
2005	「クエストエデュケーション」提供開始
2009	かわさき起業家大賞受賞
2012	キャリア教育アワード受賞
2017	一般社団法人ティーチャーズ・イニシアティブ設立 「ソーシャルチェンジ」提供開始、クエストエデュケーショングッドデザイン 賞受賞
2018	「スモールスタート」「ソーシャルチェンジングリッシュ」 「ザ・ビジョン」提供開始
2020	「エンジン」、「インターン」、オンライン対応および「個人ワーク版」 提供開始
2022	「ジョブトライアル」、「リアライズ」「リフレクション」提供開始
2023	「クエスト・エックス」提供開始 「みらい育成アワード2023」にて グランプリを受賞 三菱UFJモルガン・スタンレー証券と、金融経済教育プログラム 「WILL」「CHOICE」提供開始
2025	三菱UFJモルガン・スタンレー証券とデジタルによる金融経済教育プログラム 「お金の力-CHOICE-Digital」提供開始 東京大学CASEERと共同で 高校生を対象に 探究学習の大規模調査を実施スタート
2026	三菱UFJモルガン・スタンレー証券と共同開発したデジタルによる 金融経済教育×起業家教育プログラム「お金の力-VENTURE-」を提供開始

無償で導入可能

探究型金融経済教育プログラムは、三菱UFJフィナンシャル・グループが社会貢献の一環として教育と探求社と開発・提供しているため、無償で導入できます。

学校コーディネーターのサポート

学校のご状況に合わせたご提案や、先生方向けプログラムレクチャー等も弊社の学校コーディネーターが丁寧に対応しております。

お問い合わせ先



電話番号
03-6674-1234



メールアドレス
bim@eduq.jp
(教育と探求社 金融経済教育担当まで)



ホームページ
<https://eduq.jp/>

ご興味、ご関心のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。